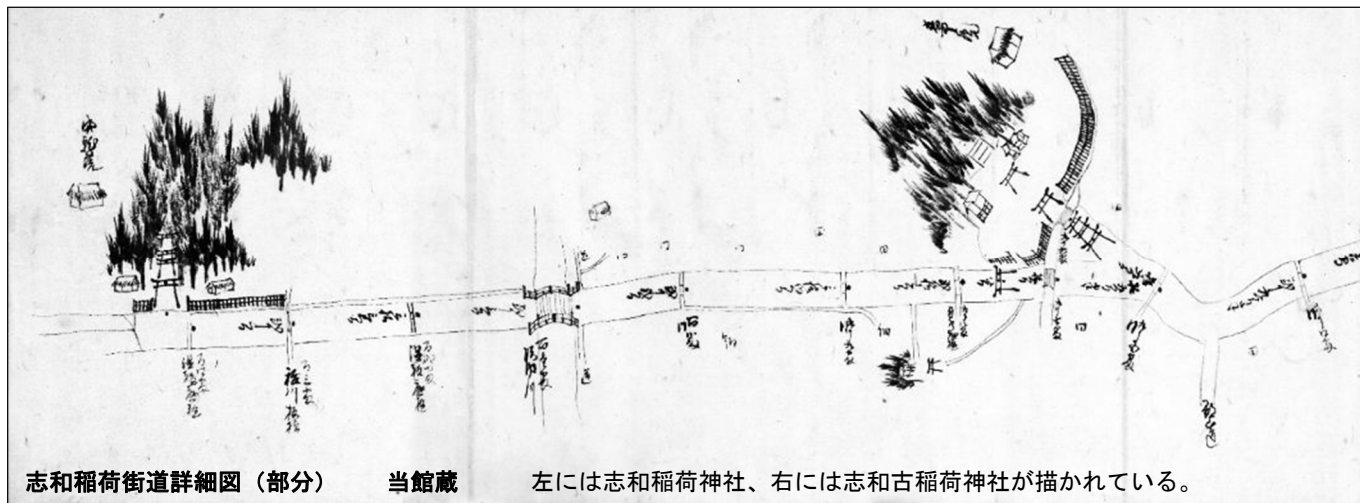


## ■企画展「都南の街道と史跡・文化財」のお知らせ



志和稲荷街道詳細図（部分）

当館蔵

左には志和稲荷神社、右には志和古稲荷神社が描かれている。

盛岡市都南歴史民俗資料館では、令和5年7月8日（土）～11月19日（日）、企画展「都南の街道と史跡・文化財」を開催します。

都南地域は、流通センターの一角や中央卸売市場、貨物ターミナル駅、インターチェンジなどを擁し、昭和40年代以降商業流通機能を担ってきました。

江戸時代の都南地域にも、大動脈である奥州街道をはじめ脇街道が巡り、人々が行き来しました。人々が集まる場所には豊かな文化が生まれ、今日に至るまで史跡・文化財として残されています。

本展では、都南地域を通る3街道をご紹介します。ぜひご覧ください。ご来館お待ちしております。

### ■奥州街道

奥州街道とは、奥州道中の俗称です。現在の国道4号線にあたります。

奥州道中とは本来、徳川幕府が定めた五街道のひとつで、白沢（現：栃木県宇都宮市）から白河（現：福島県白河市）までを指します。

白河以北、三厩（現：青森県東津軽郡外ヶ浜町）までは脇街道ですが、一般に奥州道中の延長とみなされ、同様に「奥州道中」と呼ばれました。ほか、函館街道、松前街道などの呼び名がありました。

### ■遠野街道

盛岡と横田（遠野市）を結ぶ道路で、ほぼ現在の

国道396号線と同じ道筋です。横田で大槌街道や釜石街道に分岐します。

遠野南部氏の治める遠野、銭座があった大迫、海産物が獲れる沿岸部、幕末には製鉄が行われた釜石といった重要な場所と盛岡城を結ぶ要路でした。

### ■志和稲荷街道

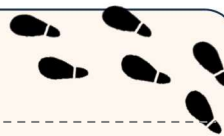
川久保で奥州街道から分岐し、志和稲荷神社（紫波町）までを結ぶ道です。信仰篤い盛岡藩主南部利済が、天保5年（1834）に手許金（藩主が自由に使えるお金）で従来からの幹線道路を大改修し、参詣に使用しました。日光街道を模し、道の両側に並木を植えた立派な道だったと伝えられています。



〈展示から〉写真パネル 大国神社の祭典

当館蔵

撮影年不明（平成6年頃）。藩政期、奥州街道沿いの津志田町に遊郭が設けられた。大国神社には遊女たちが奉納した絵馬が残されている（市指定有形文化財）。



昔、江戸で名をあげた山の上作太夫という相撲とりがいました。作太夫が南部（盛岡藩領）にいたころ、なんとかして大力をさずかりたいものだと、飯岡千手観音に七日七夜祈り続けました。

いよいよ満願という夜明けごろ、一人の美しい女性が小さな子どもを抱いてあらわれ、ふもとまで用をたしてくる間、子どもをあずかってほしいと頼みました。作太夫は承知してその子を抱いていましたが、待てども待てども女性は戻ってきません。

夜が明け、ふと手の中の子どもの見れば、なんと大石にかわっているではありませんか。作太夫は大いにおどろき、その大石を左右に振り、力だめししてみると大石の軽いこと、子どもほどの重さしかありません。作太夫は、観世音力がさずかったと喜び勇んで江戸に上り、力士となりその名をとどろかせたということです。

作太夫が飯岡山のとっぺんまでなげたという大石が「力石」といわれ、今も千手観音堂のそばにあると伝えられています。

参考文献：都南村歴史民俗資料館『都南の民話』1985年

### 民話ゆかりの史跡 飯岡千手観音

上飯岡の秋葉神社から下がった場所に、飯岡観音堂がある。木製極彩色丈3尺3寸の千手観音像が祀られており、当国（和賀・稗貫・紫波）三十三観音の第九番札所に定められている。

一時、ご本尊は大慈寺町の久昌寺に移されたが、地域住民の熱望により、昭和3年（1928）御堂が建立され再び飯岡の地に祀られるようになった。



飯岡観音  
 盛岡市上飯岡  
 9地割地内  
 飯嶋山長善寺より  
 車で西に向かい  
 約1分

## 【見て さわって 使って】 昔の暮らしを知る 都南歴史民俗資料館の貴重な収蔵品

### 第 1 回 電 話 機

盛岡市で電話が開通したのは、明治41年（1908）1月のことです。

開通当日、市街の人々がどんなに電話を歓迎したか記録から知ることができます。

「開局当日、地元の呉服町と中ノ橋町内では全町あげて万国旗を装飾して各戸では電灯軒提灯と国旗を掲げ祝意を表した。また、郵便局の前には松田雪窓筆『祝電話開通』の額を飾った大アーチを作り、夜間はイルミネーションを装置して美観を添えた」と当時の新聞記事にある。（『盛岡明治大正昭和「事始め百話』吉田義昭著 郷土文化研究会 1995）

当館では、当時の磁石式壁掛電話機（左）を展示しています。触れることができ、ハンドルを回したり、受話器を耳に当て、送話器に向かって話したりする体験ができます。また、ダイヤル式黒電話機（中）やプッシュ式電話機（右）もあります。受話器を上げ、ダイヤルを回す、ボタンを押す、電話機を持ち上げ重さを体感することも可能です。黒電話は重さが1.9kgあります。軽量、無線、多機能となった現在の携帯電話と比べながら、進化の過程を学習できます。

